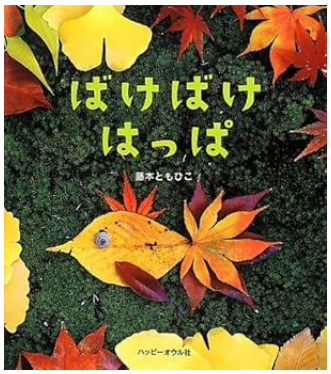
すくすく絵本だより 11月号

逆瀬川あゆみ保育園　子育て支援すくすく
本夛由香　2025.11.10

皆さん、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。

11月の絵本紹介



『ばけばけはっぱ』
藤本ともひこ作/ハッピーオウル社

落ち葉や木の実を使って作られた動物が、葉っぱの中にかくれんぼ。「ふーってはっぱをふいてみて。ふー。」のことばでページをめくると、色んな動物が出てきます。何かな？とワクワクしながらページをめくる楽しみがいっぱいです。絵本を楽しんだ後は、戸外で落ち葉拾いをし。落ち葉遊びを楽しみたいですね。

『どんぐり』
たてのひろし作/小峰書店

どんぐりが木から落ち、動物のエサになる事もあれば、そのまま朽ちていく事もあり。でもそこからまた芽を出して命を繋いでいく…。そんな生きる世界を、絵だけで表した絵本です。とても深い内容ではありますが、白黒とカラーをうまく使っているので、年齢に限らず見るだけでも感じるものがあると思います。

【『子どもと本』一章において、字を覚えるのは遅い方がいいと思うと申し上げましたが、それは、子どもに本を読んでやっていると、字が読めなということは力だと思えるからです。この表現が適当でないとすれば、字の読めない子は、字が読めるようになった子の持っていない能力を持っている、といったらいいでしょうか。…中略…三、四歳で「もう自分で読めるから」と文字をたどっている子と、読み手の言葉に聞き入っている子とでは、物語への入り込み方の深さの違いは歴然としています】　～『子どもと本』松岡享子　岩崎新書より～

字が読めないからこその絵本の楽しみ方、それは大いにあると思います。字が読めるようになるとどうしても字を目でたどることに集中してしまい、絵を十分に楽しめないこと、ありますよね。私が子どもの時に好きだった絵本は、今思い出しても絵しか浮かびません。（そこに母の声が合わさってはいますが…。）それだけ、絵に集中していたのだと思います。字を読む前にこそ、絵本の世界に入り込める機会を、できるだけ沢山作れるといいですね。それが、本と仲良くなる大きな一歩になると思います。また、字が読めるようになっても、自分で読むように促すより、出来るだけ長く大人が読むようにできるといいな、とも私は思います。